様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年　5 月　10 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：２００８～２０１１
課題番号：２０５１０２２５
研究課題名（和文）　イスラーム復興を射程に入れた公共圏概念の研究：
トルコの女性復興運動を事例として
研究課題名（英文）　Taking Islamism into the Conception of the Public Sphere: Focusing on Women's Islamic Movement in Turkey
研究代表者
澤江　史子（SAWAE　FUMIKO）
東北大学・大学院国際文化研究科・准教授
研究者番号：７０４３６６６６

研究成果の概要（和文）：
トルコの女性イスラーム復興運動を事例として、公共圏を規定する権力関係のメカニズムや、そうした不平等な条件下にある公共圏において中核的な規範形成力を有する国家や宗教に対して批判的な立場にある対抗的公衆が、そうした国家や宗教の規範形成・規律・普及力や、対立する世俗的公衆の言説をも利用したり影響を受けたりしながら､みずからの言説戦略を構築し、唱道しようとしていることを、現地調査による実証研究とそれに基づく理論化により明らかにした。

研究成果の概要（英文）：
This research project, taking an Islamic movement among women in Turkey as a case, theoretically elucidated power relations in the public sphere where publics have unequal communicative resources and abilities. It also empirically explained how, under such an unequal condition of the public sphere, those women as a disadvantaged counterpublic vis-a-vis both to the state secularist ideology and dominant patriarchal Islamic norms as major normative powers in the public sphere in Turkey, tries to construct its own discursive strategies and conduct advocacy activities, often by taking advantage of discursive frameworks, and ideological apparatuses of their opposing forces. This project also tried to integrate the state and religion into the conception of the public sphere, as the major binding factors.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,200,000	360,000	1,560,000
２００９年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１０年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１１年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：複合新領域
科研費の分科・細目：地域研究・地域研究
キーワード：公共圏、イスラーム復興、トルコ、女性

１．研究開始当初の背景

1990 年代以降、東欧諸国の民主化の経験を通して、市民社会組織の重要性や自由な批判的議論を可能にする公共圏への注目が高まり、公共圏は非西洋諸国の民主化や言論の自由を論じる際の重要な分析枠組みとなって

きた。また同時に、先進国では個人主義や自由主義の「行き過ぎ」への懸念や反省から公共性（およびそれが形成される議論の空間としての公共圏）を問い直す動きも盛んになった。つまり、公共圏研究は、民主政治や市民社会の発展や成熟の条件として重視されるようになったのである。

公共圏論はフェミニズム論者などからの批判的貢献を織り込みながら、思想的立場や階級、人種、ジェンダーなどの多様性を包摂するような公共性を涵養したり、国家や支配的社会集団が主張する公共的規範の押しつけに対抗するための、開かれた言説構築の場として構想されるようになった。しかし、あるいはそれ故に、公共的規範の形成において重要な役割を担っている宗教は、一般に否定的に扱われてきた。特に、非西洋的宗教として、オリエンタリスティックな負のイメージを負わされてきたイスラームについては、民主化、市民社会、公共圏のいずれにかかわる議論においても、ともすれば脅威、忌避すべき要素とみなされてきた。

しかし、公共圏という概念の意義は、多様な意見や批判に開かれたコミュニケーション過程において、それまで抑圧されてきた声も含めて多様な主張に耳を傾け、より公正な政治社会を築こうとするところにある。ムスリム社会において多様なイスラーム的意見や世俗的な意見が公論形成に寄与している中で、イスラーム的な主張を公共圏概念から除外することは適切ではない。必要なのは、近年活発化しているイスラーム復興運動も射程に入れることのできるような新しい公共圏概念の構想である。

このような動機、先行研究の背景の下に、本研究は、研究代表者が専門とする現代トルコを事例として、イスラーム復興を射程にいれた公共圏概念の構築を目指すこととした。

２．研究の目的

本研究は、ムスリム社会において公共圏がどのようなものとして現れ、機能しているのか、さらには近年のアカデミズムにおいて多様性を包摂するような民主政治や市民社会の成熟の条件とみなされている公共圏にとって、イスラーム復興はどのような意味合いを有しているのかについて、理論と実証研究の両面から明らかにしようとしたものである。

公共圏は、多様な階層、文化の声を表出させるような多元的なものとして概念化されてきたが、前述のようにイスラーム復興をそのような多元的公共圏の一部として取り上げることがまずは必要である。しかし、それだけでは不十分ではないかとも、研究代表者は考えてきた。つまり、宗教を公共圏の単なる一要素と扱う以上に重視して、公共圏を規定するものとして、公共圏との関係を再検討することが必要だと思われるのである。なぜなら宗教は、それ自身が規範を形成したり、社会を束縛する力をもつのみならず、権力を批判する力を有しているからである。宗教はまさにそのような両義的な機能を発揮するものとして公共圏を規定しているのである。

このことは宗教に限らず、公共的規範の形成において中核的な役割を担っているあらゆる文化的、イデオロギー的要素に当てはまる。そして、公共圏は、自由な批判の場である（べきだ）とされてきたが、公共性が規範性をもつことを考えれば、そこは自由な議論が理想とされつつも、実際にはさまざまな文化的、宗教的、イデオロギー的要因による規制や統制、排除の論理や権力関係が渦巻く場でもあるはずである。その意味で、本研究は、イスラームという宗教に焦点を当てつつも、より一般的に、そのような両義性をもつものとして公共圏を捉え直す試みである。そのような公共圏概念の方が、宗教復興がグローバルな重要性を獲得している現代世界の分析にはより有効なのではないだろうか。

このような問題意識にもとづいて、本研究は、イスラームという宗教の規範的側面や宗教復興運動を分析の射程に入れ、そこで機能する権力関係の動態を解明しつつ、ムスリム社会における公共圏の概念化を目指すこととした。

３．研究の方法

前述のような公共圏の両義的側面を捉えるために、本研究ではトルコを事例として取り上げることとした。トルコは国是が世俗主義である一方、1990 年代以降、イスラーム復興運動を代表する政党が台頭しており、公共圏における国家と宗教の影響力を分析するために格好の事例といえる。

中でも本研究は、イスラーム復興運動の一部をなす女性 NGO を取り上げる。この NGO の女性メンバーたちは、国家によるスカーフ禁止に反対するという点で世俗主義国家に異議を申し立てると同時に、フェミニズムに影響されながら家父長主義的な保守的イスラーム解釈や実践にも対抗する唱道活動を行っている。また、彼女たち自身が、世俗主義国家が管轄する学校教育を大学や大学院まで終える一方で、イスラーム的な道徳規範を身につけているという点で、国家による規律化や社会レベルでの宗教の規律化によって陶冶されてもいる。つまり、調査対象の女性たちは、国家レベルと社会レベルにおける主要な公共的規範（国家イデオロギーと支配的イスラーム規範）に規定されながら、それに抗していくという立ち位置にあるのである。

本研究では第一に、このように具体的な事例を取り上げることによって、公共圏における対抗的な公衆の活動を、それがどのような権力関係の中で／それに抗しながら／それに依拠しながら活動を展開しているのかを、実証的に明らかにしようとした。調査方法としては、NGO メンバーへのインタビューの他、NGO の出版物や活動への参加によるデータ収集を行った。

第二に、事例による実証研究に依拠しながら、本研究は公共圏概念の再検討という理論的側面も重視した。先行研究が、権力関係において平等でない多様な公衆集団による多元的公共圏という概念化を行う一方で、国家や宗教という公共圏を規定する要素がどのように公衆に働きかけるのかという側面はこれまでほとんど取り上げられてこなかった。そこで本研究では、トルコを事例として、フーコーの規律権力やグラムシのヘゲモニー論に着想を得ながら、公共圏での規範拘束力がいかに作用しているのかをモデル化することを目指した。

４．研究成果

(1) １～2 年目は、公共圏を規定する条件の一つとしてイデオロギー的条件に焦点を当てた。トルコの政教関係をめぐる議論で主要争点であるスカーフ問題やイスラーム政党を事例とし、国家レベルの政教関係、特に、体制構造（世俗主義的立憲体制）とそれをめぐる政治社会諸勢力間の権力関係を検討する論文発表と学会報告を行った（次項「学会発表」の③、「図書」の①～③)。

また、理念的公共圏論は合理的で多様性に開かれた公衆グループ関係を理想化してきたが、そのような理想を現実において阻む要因も考察した。具体的にはイスラーム復興勢力側が何故、対立する勢力との間で信頼を醸成できないのかを、I.バーリンの自由論に着想を得て、共和主義、リベラリズム、イスラームがそれぞれ有する自他関係へのアプローチの違いに注目しながら分析し、学会で報告した（次項「学会発表」の⑤)。

(2) 2 年目から 3 年目にかけては、イスラーム復興の一翼を担う女性 NGO に焦点を当てた。NGO に注目することにより、市民社会レベルでの公共圏の在り方、特に、世俗的公衆とイスラーム的公衆の関係を精査した。さらに、イスラームとジェンダーの関わりがより直接的に焦点となることで、イスラーム的公共圏の中の多様性や対立、権力関係を世俗的公共圏との関係や（1）で取り上げた体制構造の観点も踏まえた分析を行った。研究成果は、国際ワークショップで発表され（次項「学会発表」の④)、近く書籍の一部として刊行される予定である。

本研究は主として一国内に限定して公共圏概念を検討することを目的とするが、公共圏は本来、国境を超えて国際的な相互作用や摩擦という広がりをもつものである。そこで、3 年目には海外研究者を招致して国際ワークショップを開催し、国際ジェンダー公共圏とムスリム諸国のジェンダー政策の関係を比較検討した（次項「学会発表」の②)。招聘者の発表論文は雑誌論文として発表され、研究代表者らによる翻訳も刊行された（次項「図書」の④)。

(3) 3 年目から最終年度にかけては、とりまとめの年として、より総合的な観点から事例研究に依拠した理論的考察を行い、発表した。その成果はまず雑誌論文として発表された（次項「雑誌論文」の①)。同論文はその後、研究対象国における学会でも発表され、現地からのフィードバックを得た上で（次項「学会発表」の①)、その改訂版が現在、トルコ専門の国際誌に投稿中である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

①澤江史子、「トルコにおけるイスラーム的女性公共圏―首都女性プラットフォームを中心的事例として」、『アジア経済』、査読有り、Vol.52/4、pp.9-35、2011 年

〔学会発表〕（計 5 件）

①Fumiko SAWAE, “Practicing women in the Public Sphere: The Case of the Capital City Women’s Platform in Turkey”、 The Cultural Studies Association of Turkey “The 6th International Cultural Studies Conference ‘Space and Culture’”、2011 年 9 月 8 日、Kadir Has 大学（トルコ、イスタンブル市)

②Fumiko SAWAE、(as the coordinator and moderator of the workshop), The International Workshop “Dynamism of Gender Politics on Contemporary Muslim Societies”、2010 年 10 月 17 日、東北大学

③Kimitaka MATSUZATO and Fumiko SAWAE、“Rebuilding a Confessional State: Islamic Ecclesiology in Turkey, Russia, and China″、 The Second International Symposium of Comparative Research on Major Regional Powers in Eurasia “Comparing the Politics of the Eurasian Regional Powers:

China, Russia, India, and Turkey″、2009年12月13日、法政大学

④Fumiko SAWAE、“Islamic Women's Advocacy in Turkey: The Case of the Capital City Women's Platform″、 The International Workshop “Diversity of Islamic NGOs″、2009年10月11日、東洋大学

⑤Fumiko SAWAE、“A Stalemate in Conflicts Relating to Laiklik and Islamic Movements in Turkey″、Winter International Symposium “The South Ossetian Conflict and Trans-border Politics in the Black Sea Rim″、2009年3月6日、北海道大学

〔図書〕(計4件)
①澤江史子、ミネルヴァ書房、日本比較政治学会編『国際移動の比較政治学』(日本比較政治学会年報第11号)、2009、37-68ページ

②Fumiko SAWAE、The Toyo Bunko、Tsugitaka SATO ed., *Development of Parliamentalism in the Modern Islamic World*、2009、pp.220-245

③澤江史子、明石書店、森孝一編『ユダヤ教・キリスト教・イスラームは共存できるか――一神教世界の現在』、2008、12-32ページ

④（翻訳）澤江史子・川邊敬子共訳、東北大学出版会、辻村みよ子・スティール若希編『アジアにおけるジェンダー平等―政策と政治参画―』、2012、221-245ページ

６．研究組織
(1)研究代表者
澤江　史子（SAWAE　FUMIKO）
東北大学・大学院国際文化研究科・准教授
研究者番号：70436666

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：